

# らい 来ぶらり 42

## 変わる図書館員の役割

図書館次長 種田昭平

平成元年度から始まった「大学図書館コンピュータ化計画」は幸い順調に進み、予定どおり今年度は、洋書の整理も和書と同じ学術情報センターを利用したシステムでデータベース作りを開始した。コンピュータ化はその一部が始まったばかりであり、これから貸出・返却業務や受入業務へと、トータルシステムへ向けて一步一步進めて行かねばならない。

まだわずかな経験の中から、コンピュータの導入が、図書館員の役割に明らかな変化をもたらしている実状の一端を紹介する。

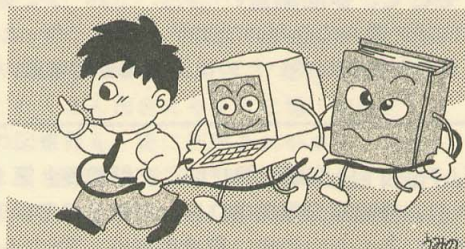
これまで、図書館員にとって最も専門的な仕事のひとつとされていた目録作成業務が、学術情報センターのような書誌ユーティリティ（大規模な書誌情報データベースを持ち、多数の図書館がオンラインで接続し、共同で作成した目録情報ファイルを維持している団体）に参加して、コピーカタログングを行えば、館員でない人たちにも簡単にできるようになった。実際多くの図書館が、アルバイトやパートを使い、あるいは外部業者に委託するという形で、目録データを作成している。私たちの図書館も決して例外ではない。

だからと言って、整理業務を担当する図書館員に専門的知識が必要でなくなった、というわけではない。むしろ、これまで以上の知識、技術、能力が要求されるようになってきている。それは従来の資料組織化の知識（目録規則や分類などの知識）や書誌の知識に加えて、完全でないにしても、ある程度の情報

処理の技術とか、館員でない人たちを教育・指導し、監督する能力とか、作成されたデータをチェックする役割などである。

また、目録規則にしても、他人の作成したデータを解析し、どう修正するかを検討するためには、今まで以上の深い理解が必要である。これらの知識や能力を総合的に身につけた少数の図書館員が、本当の専門家として、館員でない人たちを教育・指導しながらデータベース作りをする、これがこれからの整理業務の主流になるのではなかろうか。

参考業務においても、コンピュータへの依存度は急速に高まっている。参考図書を中心にしたレファレンスから、データベース検索を中心としたそれへ。ここで必要とされるのは、サーチャーと呼ばれる専門家である。適確なデータベースの選択、適切なキーワードの入力によって、利用者の要求するデータを、迅速かつ正確に検索する。参考係もこれまで以上の専門的な知識や能力がなければ、ますます高度化し、多様化する利用者に対応できなくなっている。





# 長期休暇中の図書館利用法

## —— 国 外 編 ——

**夏のワシントン**には、世界各地から研究者が集まります。そこには議会図書館や国立公文書館があり、貴重な資料がそろっているからです。わたしも去年は夏休みを利用して、資料を集めに行ってきました。

どこにどんな資料があるかということは、旅行の計画を立てる前からだいたい分かっていたので、それぞれの図書館の利用法を調べておく必要はありました。資料の検索・請求・返却の方法などについては、実際に利用したい図書館に行ってから利用案内をみても、いちおう事は足りるでしょう。そのうえ図書館には参考係、公文書館にはアーカイヴィストがおり、いろいろと相談にのってくれます。しかし、館内へのアクセスの条件と複写の可否については、ぜひとも国内で事前に調べておきたかったのです。

**海外の図書館**といっても大抵の場合は、本学図書館の紹介状さえあれば出入りを許可されるはずです。しかしながら、旅券だけでよい場合、特殊な資格制限がある場合、特別な提出物を要求される場合、有料である場合もありうるので、しっかり調べておかないと心配です。資料の複写については、まず可能と考えられますが、できない場合もあります。また、可能な場合でも、セルフサービスと注文とでは料金と所要時間に大きな差があるので、その点も心配でした。

**そこで、事前調査**のためにいろいろな場所に足を運んでみたのですが、結局、もっとも資料が充実していたのは国立国会図書館の

図書館学資料室でした。そこには、さまざまな図書館・文書館の利用案内が収蔵されているので、興味のある方は一度のぞいてみるとよいでしょう。

**つぎに、公刊されている文献**としては、*American Library Directory*; *Directory of Special Libraries and Information Centers*; *Directory of Archives and Manuscript Repositories in the United States*などが参考になりました。ただし、利用者の関心はそれぞれですから、まずは *Guide to Reference Books* のような参考図書に関する文献から始めるのが無難かもしれません。

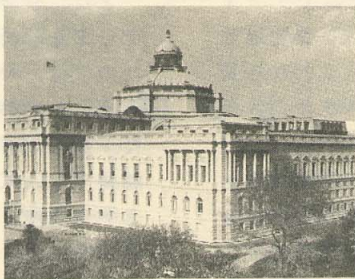
### その他の調査方法

としては当該の図書館に手紙で問い合わせる方法が考えられます。時間はかかりますが、返信が届くことは期待してよいと思います。このとき、近隣の宿泊施設や交通手段について尋ねてみるのも一考です。アメリカでは、いささか辺鄙な

ところにある図書館・文書館に貴重な資料が収蔵されていることがあり、それを全国の研究者が閲覧しにくるため、宿泊先のリストを用意してある図書館は意外に多いのです（この点はプリンストン大学の図書館員にインタビューして確認しました。また、国立公文書館は実際に手紙で質問にこたえてくれました）。

海外の図書館における資料の収集には、「宝探し」にも似た楽しみがあります。大学図書館ならば夏でよいのですが、それ以外ならば少し時期をずらせた方が、混雑を避けることができるとよいでしょう。

(政治学専攻D2年 西岡達裕)



---

『ARENTS 文庫世界たばこ文献総覧』第1巻（たばこ総合研究センター 1992年刊）を受け入れ。多彩な文献の中には、たばこについて「脳をすすげさせ頭がい骨の内側にかさぶたができていく」という怖い記述もあり、エピソードに事欠かない。（請求記号R614-63-1）



## —— 国内編 ——

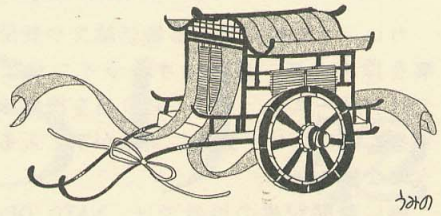
### (貴重書の閲覧)

昨年、卒業論文を書くに当たって、私は何冊かの貴重書の閲覧を幾つかの図書館にお願いし、実際に見ることが出来た。

私は美術史専攻であるが、日本の古美術を考える上ではさまざまな文献が必要となる。美術作品のみでは語れない。公刊されている絵画に関する史料はまだ数少ない。画人をテーマとした場合にはその立場を考えるためにも、画事とは直接関係ないことも調べなければならぬ。

さまざまな史料をさまざまな所でお見せいただいたが、その中の一つ竜谷大学における閲覧を紹介する。閲覧させていただいた史料は現在までほとんど紹介されることがなかったものであった。ある論文に数行の抜粋文があり、この史料は私が卒業論文で扱おうとしていた人物の附近で書かれていると感じたからであった。内容はもちろんのこと、成立年代をも考えてみたく、特別閲覧をお願いしたのである。

まず、実際の所蔵を確認するために『国書総目録』により調べた。その上で大学図書館の運用課から閲覧可能かどうか、問い合わせをしていただいた。実際に閲覧することとなった日のほぼ1か月前であると思う。2週



間後には許可証が大学図書館あてに送られて来るであろうとのことであったが、意外に時間がかかり、特別閲覧許可証を頂いたのは出かける3日ほど前であった。

当日は東京から行くこととなり、11時ごろに伺う約束とし、ほぼ時間に正確に着いた。竜谷大学の図書館の建物は古く、入口に最も近いカウンターの年配の方に、特別閲覧をお願いした者である旨を告げた。閲覧許可証・紹介状をお出しすると、丁重に中に入れていただけた。カウンターの裏、貴重書が入っていた書庫の大きな防火扉の横で、拝見させていただいた。特に厚くなかったが字はかなり読みにくく、夕方までかかった。美術作品の閲覧と同様、閲覧には十分な配慮を行ったつもりである。

史料保存の観点から見れば、すべての人に古文書に触れるとは言い難い。しかし元史料である書物に当たるのも、この研究の一つの楽しみである。機会があれば大学図書館にお願いしてみればいかがであろうか。

(哲学専攻M1年 香山里絵)

## ことしのニュースタッフ



学窓を離れて以来、ふたむかし少々ぶりに、本の集団と係わり合うことになりました。私の学生時代は昭和40年代前半で、その当時興味をもった分野の研究者はわずかで——今でも多くはないようですが——、専門書の数も少なく、本は指導教授から借用したり、先輩から譲り受けた時代でした。

譲られたなかで、今も思い出があり貴重

なものと思えるのは『湖沼巡禮』(田中阿歌麿著・昭和15年発行)と『湖沼調査野帳』(中村道太郎著・昭和17年発行)の2冊です。私が“出合った”と思える本の数はわずかですが、学生の皆さんが、これから生活してゆくうえで、“意味を持つ”本とたくさん出合えるような場・空間としての図書館を、更に利用されやすいように、また機能するように努力してゆきたいと思っています。(運用課長 石井新一)



## 参考室あれこれ

カレントな資料である雑誌論文や新聞記事を探すのに、最近ではオンラインによるデータベースや、CD-ROMを機械検索することにより、気楽に文献が手に入るようになりました。

特に新聞記事の検索では、NATO, OPEC, GATT (ウルグアイ・ラウンド)、CSCE (全欧安保協力会議) 等々に関するこころ、2か月の動きを調べたり、飯坂良明教授が朝日新聞の「論壇」に書いた記事を探したりするのに大変便利に使えました。

また、研究論文として“Quantitative Linguistics” “Quantum Biology or Quantum Chemistry”などのキーワードから欧文の雑誌論文を探したり、FurtwänglerやBlakeといった人名から論文を集めることも容易

になりました。

探し方は、求める事柄の検索語を組立てて入力していくのですが、語の選び方でヒットする件数が違ってきます。例えばナルマダダムについての新聞記事を探すためにこの語をいれると8件ありました。ところが、ODA、ダム、インドとすると24件もありました。このあたりは利用者の知恵次第ということになりましょうか。ただ漫然とPKOといれたりすると何百件という数字がでてきてしまいますから、期間をきめたり言葉を加えたりが必要になります。

抱えているテーマがしぼれなかったり、漠然としていたら主題別になっている『雑誌記事索引』という索引誌で探すと思われぬ発見が多々あります。

(参考係 甲斐静子)

## お知らせ

### ○夏休みも図書館は開いています。

7月21日(水)から9月14日(火)まで、次のとおり利用できます。

平日 8:50~16:30

土曜日 休館(ただし9月4日・11日は12:00まで開館)

### ○夏休みの長期貸出が始まります。

取扱期間:7月7日(水)~9月14日(火)

返却期限:9月18日(土)以降

※返却期限は貸出日によって異なります。

貸出冊数:学部学生……………5冊まで

院生・論文貸出……………10冊まで

### ○「論文貸出」の登録受付中

卒論・ゼミ論のテーマが決った4年生を対象に、通常の貸出とは別枠で「3冊、1か月」の館外貸出をおこなう「論文貸出」の登録を受付中です。手続きは2階カウンターで。

## 編集後記

前号を配布し終えて間もなく、机上の電話が鳴りました。「<sup>こぼし</sup>辛夷の樹は移植してある。」とのご注意でした。やはり“手抜き”は御法度ですね。

舞台裏<sup>きょうり</sup>を明かせば、締め切り日過ぎて集った原稿も似た内容のものが重なり、急遽差しかえた私の埋め草でした。時間切れで確認作業を怠り、まさしく「因果の小車」と反省させられました。訂正しておわびいたします。さて、本号ではどんな失敗をいたしますやら、冷や汗ものです。(田村)



来ぶらり No.42 1993年7月1日発行

発行責任者:片瀬 潔 編集委員:田村節子 小林邦子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03(3986)0221